



【佐田 哲さんの紹介】

野木町立野木中学校、栃木県立宇都宮高校を卒業し、東京工業大学工学部に入学。大学在籍中から海外に行き、各地で生活していた。卒業してからも同様に生活。この頃から精神症状(幻聴、妄想)があったよう。その後病院に6年間の入院をする。退院後、地域活動支援センターみらいに通所する。当初から就労したいと希望をしていた。通う日数を徐々に増やし、花れい工房・カレーハウスにも通所をするようになっていった。就職前には週5日カレーハウスへ通所していた。みらいへ通所を開始してから5年目に障害者雇用にて就職し、現在も働いている。

ー人生第二の危機ー

みらいでのカリキュラムをすべて終え、華々しく就職した私であったが、危機はそのあとに待っていた。中学生の時に痛めた股関節のために、仕事を続けるのが困難になってしまったのだ。

もう後には、引き下がれない。

レントゲンや、MRIなどをとっても原因がわからない。手術と言っても、原因がわからないのでは、手術にならない。至急、施設長に連絡を取ったが、このままでは、会社にもがっかりさせてしまう。

まさに、統合失調症の次に来た、人生第二の危機だった。

しかし、今度の私は今までの私とは違った。

このくらいの困難を乗り越えられないようでは、これから先起こるであろう、様々な困難に打ち勝って行くことはできないと思い、ネットを調べては、自分にあてはまる症状を探し出し、片っ端から治療法を試した。そして、ついに痛みがなくなる方法を見つけ出したのだ。

この世に無事に生まれてこれた安堵感と同じような、何とも言えない、安心感に包まれた。



私は、現在42歳だが、後半分の人生を生きる権利が与えられた、そんな気分だった。今でも、現在の生活は、精神病院の閉鎖から、与えられた、ただの休息に過ぎないと思うような気持ちになることが、多々あるが、自分は一生精神病院にいないてはいけない人間なのではないのだ、と感謝の気持ちでいっぱいになった。

一時は、もうだめかと思った。

しかし、周りの人たちは、温かかった。

今回のことで、私が最も学んだことは、人間というのは、うまくいっている時だけ、みんなからちやほやさされて、弱くなっているときは、みんなから罵声を浴びせられる、そういう生き物ではない。

弱い時でも、それをまるで他人事ではなく自分のことのように、心配し、考える、そういう生き物なのではないか、と思ったことだった。

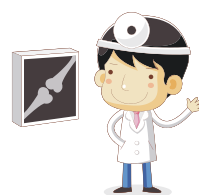
そして、それと同時に私に芽生えたものは、愛だった。

今回のことで、周りの人が、私にしてくれた思いやりは、自分にとっては、有り余るほどのものであり、自分以外の物に対して、人はこんなにも親身になってくれるものなのかと思うくらい深く、自分も負けてはいられないぞという気持ちにさせられた。

聖書にある、汝の隣人を愛しなさい。

まさにそれだった。

少し早いかもしれないが、このような経験をできたこと、それだけで、今回この世に生まれてきて、よかった、そう思えた。みらいでの、アリス（地域活動支援センター）、花れい工房、カレーハウスというリハビリも無駄にはならなかった。



私は、みらいに在籍中に、ピアサポートグループ野木という団体を立ち上げたが、弱いときこそ助け合おう、そして、みんなで元気になろうというグループの精神は、受け継いでいてもらいたいし、私も力になればなりたい。

私はもう、今の会社からお金で他の会社に移る気はなかった。

会社は、仕事場であると同時に、家族なのだということも知った。

うまくいっている時だけ、周りに囲み、落ちぶれたらしらんぷり、の人間関係なのではなく、助けを必要としている時に、お互いに助け合えるのが、真にクールな人間関係なのではないだろうか？

誰もが、不可能だと思っていた体の痛みを奇跡的に治してまでも、働きたいと思った今の会社を、これからも続けたい。

もし、みなさんが、応援してくれたなら、そんなに心強いことはない。

会社は、3ヶ月間の試用期間の後、正社員にしてくれた。

人手不足もあるが、予想以上の好待遇だ。

話が、みらいの話から、少しそれてしまったが、みらいでスタッフなどと相談しながら、頑張っていけば、私の就職したような会社へ斡旋もし、手伝ってもらえる。

そして、就職した後も、手助けをしてもらえる。

ノーベル賞をもらうのも、確かに立派だ。しかし、身近にいる人のことを、まるで、自分ことのように感じられる、そんな人間関係ができれば、地位名誉に変えられないのではないだろうか？

佐田 哲



花れい工房を利用して



私がみらいに通うようになって約2年がたちます。

私はもともと話すことが苦手で、最初は自分から話しかけることができませんでしたが、すでに通所しているみんなとスタッフの方から優しい声をかけてもらうことができ、安心しました。

そして、いつのまにか気付いたら何カ月が経つうちに自分も自然体でいろんな人と話せるようになっていきました。

作業中もはじめの頃は、眠くて仕方ありませんでしたが、半年・1年経つうちに症状がかわり元気に働けるようになっていきました。

家において、寝ているだけの生活から規則正しい生活に変わっていきました。

また、地活のプログラムに時々参加して、地活のみんなとも花見に行き、仲間も自然とふえてきました。

今年からは、作業内容も増え、ますます生きがいを感じるようになりました。

これからも社会復帰にむけ、元気にみらいに通所したいと思います。

花れい工房利用者 T・I